



今月6日に、聖現寺（那覇市上之屋）で大柴燈護摩があります。燃え盛る炎の上を歩く火渡り行（火生三昧）も行います。参加自由ですので、「ご興味ある方は、ご参拝下さい。」

日時・・・平成31年3月6日（水）13時厳修

場所・・・聖現寺 那覇市上之屋392（泊高校裏手）

お坊さんは一番知らない 良啓

京都の道場で修行中に老僧に何度も言われた言葉です。謙虚に生きることが僧侶の本懐と言う信念から、若い私達に口酸っぱく教えてくださいました。老僧曰く、「現代は資本主義の時代であり、経済が第一優先である。目に見えぬ仏を拝んでいる坊さんは、何も経済活動をしていない。そういう意味で、現代に一番要らない職業である。それなのに、世間を見渡してみると、自分は偉いと勘違いしている坊さんが多い！だから、そんな坊さんにならずに、分相應の立場を守りなさい。」と言う戒めでした。

一方、「自分は、まだまだ未熟です。」と、平身低頭を貫く事ではありません。老僧は、「こうも仰っていました。

卑下慢（ひげまん）になってもいけない。

※卑下慢とは、謝っていないながら、謝っている自分を過大評価している自惚れの一つです。

なぜなら、未熟者の法話を喜んで聴きたい人はいません。上から目線でもなく、ひたすらにへりくだる訳でもなく、自然に、仏の心に身を任せた時に、仏法の真髓が宿ります。その自然体を常に体現する為には、日々の修行が一番の近道と言う訳です。

あの頃は、このクガニクトウバの半分も理解出来ていませんでした。たくさんの経験を積んだ今、この言葉の深さ、含蓄に感心しています。師との出会いは一期一会であり、教えは一生です。さあ、今日も修行しましょう！

身近にある仏教語⑬

裕俊

私達が日常的に使っている言葉の中には、仏教に関係している言葉がたくさんあります。そんな言葉を由来と共にご紹介させていただきます。

善哉

皆さんは「善哉」この漢字を読めますか？大晦日に神宮寺でもお配りしている「ぜんざい」です。素晴らし、という意味のサンスクリット語を漢訳した言葉で、仏様がお弟子さんを褒めるときによく使われていた言葉だそうです。あるお坊さんが餡の入った甘い汁物を食べた時、あまりのおいしさに善き哉（よきかな）と絶賛した事からこの汁物をぜんざいと呼ぶようになったといわれています。ちなみにお汁粉とぜんざいの違いですが、関東では、汁気のあるものがお汁粉、汁気の無い餅に餡を混ぜたものがぜんざいとなっていて、関西ではこしあんを使った汁粉がお汁粉、つぶあんを使った汁粉がぜんざいとなっているそうです。

しかし、個人的にはやはり暑い夏に食べる沖縄ぜんざいが一番美味しいと思っています。思わず「善き哉」と言ってしまうですね。

